

タシギ（シギ科） 全長26センチ

3月28日、野鳥仲間のS氏から、大曲バイパス近くの田んぼで12～13羽のタシギかオオジシギが見つかったと連絡が入った。

急いで駆け付けると、そこは雪が溶けたばかりの水田の真ん中。羽の模様が土の色、稲の切り株とそっくりの保護色で、教えてもらわないと絶対に分かりません。長いクチバシと体の模様からシギ類と分かったが、タシギかオオジシギかは直ぐには判別が付きません。



体の模様が周囲に溶け込み、簡単には見つからない保護色になっています。

後日、県野鳥の会事務局長に写真判定してもらったところ、3月に群れで見つかったことと、尾羽の特徴からタシギであると判明。S氏が最初に見つけたのは3月25日で、これまで最も多い時は24羽を数えたそう。

今日4月7日朝には13羽が見つかり、2週間続けて滞在していたことになります。私も7日の午後現場に向かったが、いくら探しても1羽しか見つかりません。

暫くすると、この1羽もパッと飛び立ち、バイパス道の向こう側に降りて行った。降りた田んぼは国道すぐそばの休耕田でした。



お互い見つめ合っていたが、左の背の高いほうがクチバシで追い払った。



羽繕い中の尾羽が、タシギと判別されたポイント。

ここは湿地帯のように水溜りが広がり、9羽のタシギがあちこちに見つかった。全員泥の中にせわしなくクチバシを刺し込み、餌を探し歩いている。ここは餌場ようだ。まだ他にも餌場があり、何か所かに散らばっているかもしれません。ここで体力をつけて、一気に北上するのでしょうか。

タシギの繁殖地はユーラシア大陸北部から北米大陸と言われています。渡りの途中に立ち寄ったのでしょうが、いずれ大仙市から旅立ってしまうでしょう。



尾羽を全部開いてくれたら、枚数が分かるが・・・。



水溜りの泥の中にクチバシを刺し込み、餌を探していた。